

チゴハヤブサの営巣数減少の要因はなにか？

弘前大学農学生命科学部 3年 立石淑恵

はじめに



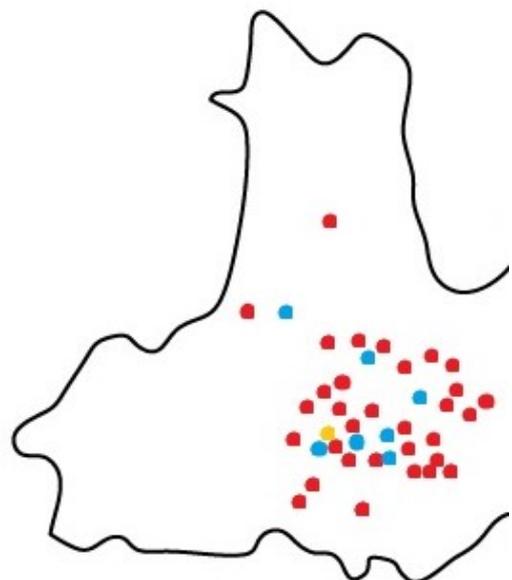
チゴハヤブサ *Falco subbuteo* は、日本では主に北海道と東北地方に夏鳥として渡来し、寺社林や都市公園などで繁殖する。環境省のレッドリストには含まれていないが、11府県のレッドリストには掲載されており、青森県ではクラシク<希少野生生物>に分類されている。

2001-2004年、日本野鳥の会弘前支部が青森県西部（津軽地域）でチゴハヤブサの繁殖調査を行い、計33カ所（各年16~20カ所）で営巣が確認された。2017年に、前回調査で営巣が確認された場所を中心にチゴハヤブサの繁殖分布を再調査した。その結果、前回の営巣場所33

カ所の中で今年営巣が確認されたのは、たった1カ所だけだった。また、同範囲を網羅的に調査したところ新たに営巣が確認できた場所が7カ所あった。これらの調査結果によって、青森県西部のチゴハヤブサの営巣数が激減していることが明らかとなった。

図 2001-2004、2017年の青森県西部のチゴハヤブサの営巣場所

- : 2001-2004年に営巣し、2017年は営巣しなかった場所
- : 2001-2004年に営巣し、2017年も営巣した場所
- : 2017年に新たに営巣が確認された場所



目的

営巣数が減少した原因を、前回調査の営巣地のうち、2017年は営巣していない場所が多くあったことから、過去営巣していた場所の環境が変化し、営巣に適さなくなったと考えられる。またその他の原因として、チゴハヤブサの巣立ち雛数が減少していることも考えられる。よって本研究では、青森県西部でチゴハヤブサの営巣数が減少した要因を、時系列変化を含む営巣地の周辺環境と繁殖失敗原因（特に巣内雛の死亡原因）に焦点を当てて、明らかにする。本研究の結果は、チゴハヤブサの営巣数減少を抑えるための保全策の考案に活用する。

方法

<調査地> 青森県西部（板柳町、五所川原市、田舎館村、つがる市、平川市、弘前市、藤崎町）の、2001-2004年に営巣が確認された33か所、2017年に新たに確認された7か所と、その他の林地

<調査期間> 2018年5月～8月

- ① 繁殖分布調査：青森県西部全域（上記の計40ヶ所を中心とする）で、チゴハヤブサの営巣を目視と、目視で確認できない場合には補助的にコールバックによって確認する。また、各調査地にて、面積、樹種構成、営巣に適した古巣の有無、他の営巣鳥類の種類と数などの環境変数を記録する。加えて、過去の航空写真を用いて営巣地を含む地域の土地利用の変遷を確認し、植生や林地の変化を調査する。
 - ② 繁殖行動調査：いくつかの繁殖つがいを対象に、巣や親鳥の止まり木のビデオ撮影を行う。それによって、巣内雛の死亡時期や原因など繁殖失敗原因明らかにする。
-

必要経費など

バードリサーチでご支援して頂いた場合、支援金は①繁殖分布調査のための交通費や②繁殖行動調査のためのビデオカメラの購入などに充てる。